

平成30年度 第1回女川町地域公共交通会議 議事録

1. 日 時：平成30年7月24日（火） 13：30～15：00
2. 場 所：女川町役場 仮設庁舎3階 会議室
3. 議 事：(1)平成30年度の取り組みと方向性について
(2)町民バス運行内容の改正案について（9月実施予定）
(3)女川町地域公共交通網形成計画策定スケジュールについて
(4)その他

■議事概要

(1) 平成30年度の取り組みと方向性について

○特に質問等はなかった。

(2) 町民バス運行内容の改正案について（9月実施予定）

○事務局からの説明後、以下のような議論をおこなった。

委員A 五部浦便・北浦便がツルハドラッグ宮城女川店まで延長されるが、途中通過するバス停には停まらない。問題ないと思うが、バス停の目の前を通過するのであれば、停まってほしいという要望が出るかもしれない。途中で停まることによってその区間の利便性が上がるのであれば、次回以降、乗り入れを検討してもいいのではないか。

その一方で、ダイヤが上手く往復になっていない感じがする。このダイヤで本当に使ってもらえるのか、しっかり見極めなければならない。例えば、夕方の帰り便はあるが、行きが午前中しかないとなると、使ってもらえないかもしれない。

事務局 ツルハドラッグ宮城女川店へ行く途中にあるバス停に停まった場合、運行ダイヤへの影響は1分から2分程度であると思うが、きぼうのかね商店街のバス停については、一度商店街敷地内に入らなければならないので、運行事業者と相談をし、その辺の時間調整が可能であれば、乗り入れの開始を検討したいと思う。ちなみに、このルートは交通量が多い道路であり、通行の妨げとなってしまうため、道路上に停まるのは難しい状況である。

五部浦便・北浦便のダイヤについては、それぞれ1台で運行しており、ドライバーの拘束時間や休憩時間を考慮して調整している。第1便の上りは主に高校生の通学に対応しており、第2便は地域医療センター利用者の運送を想定している。上り第1便で7時33分女川駅発のJRに乗る町民を駅に降ろした後、そのまま回送で離半島へ戻り、第2便で地域医療センター利用者に対応している。上り最終の第3便は、昼頃に町内の中心部に到着するダイヤとなっており、午後から中心部に来る便がない状況だが、利用者がいなかったということもあり、このような運行内容となっている。帰りの便については、10:56の便が、午前中早めに病院が終わった方が帰ってくる便、そこから少し時間が空いてし

まうが、14:52の便が、病院を午前中ぎりぎりまでかかった人が乗る便、第3便については、石巻からJRで帰ってきた方を拾う便として考えている。全ての時間帯にまんべんなく運行するのは難しいということで、必要性が高い時間帯を見極めて運行している。

委員A 延長して走らせても、ほとんど利用者がいないという状況もあり得る。その辺を見極めながら対応していくべきである。

他の便と組み合わせながら使うようなことがあるのであれば、それも案内すべきだと思う。

事務局 利用状況や利用者の意見等を確認しながら、次回の改正内容を検討したいとおもう。

委員B 資料2-2の5ページにある総合体育館前（町民野球場仮設）について、事務局から話があったように、十分なスペースはあるが、駐車禁止区域になっていないのと、すぐ脇にエレベーターがあるため、業者さんが荷物を降ろしたりするのに車を停めていることが多いように思う。そのような車両があると、バスの旋回が難しいので、標識等を設置して、周知していただくと非常に助かる。

事務局 バス停設置予定場所付近へ駐車しているのは、ほとんど宅配便等の業者さんで、長時間の停車は基本的にあまりないと公営住宅の担当から話を聞いている。バス停看板や住宅掲示板、エレベーター付近へ注意を促すチラシを掲示し、対応したいと考えている。

(3) 女川町地域公共交通網形成計画策定スケジュールについて

○事務局からの説明後、以下のような議論をおこなった。

委員A これまでの調査内容を見ていると、現状の定時定路線型の町民バスを維持していく前提のようだが、デマンド型交通や公共交通空白地有償運送といった別の手段を検討する予定はないのか。現時点でそういったことを町民に聞くのは早いという気はするが、いずれ議題に挙げざるを得なくなると思う。

事務局 震災前はドア to ドアのデマンド型交通で走らせており、一部の住民からも、デマンド型交通に戻して欲しい等のご意見をいただいている。ただ、アンケートに大々的に書いてしまうと、そちらに意見が固まってしまうような懸念があったため、調査票には記載できなかった。事務局としては、現在の定時定路線で落ち着いて運行できている状況なので、当面はこのまま様子を見たいと考えている。

五部浦便、北浦便については、利用者が極端に少ない日もあり、土日はほとんど利用がないので、離半島のみ予約制にできないかというのは、前々から検討しているところである。グループインタビュー調査の際に、そういった意見

等を確認し、再度検討したいと考えている。将来的に何としても定時定路線を維持していくと考えているわけではない。

(4)その他

○ 以下のような意見があがった。

委員C 資料2-2の4ページについて、赤線で囲った部分は通行止めになるが、大原から仮設消防署の方面に行くにはどうすればいいのか。

事務局 役場仮設庁舎の脇から清水方面に走る道路が開通したので、日蕨の方からなごみ荘の方へ上がっていくルートとなる。新しく造成された清水の住宅地から、総合体育館の脇の方に出てくる細い道があるが、そこも通行止めになってしまうため、大原から仮設消防署の方面に行くには、一旦女川小学校側の道路を回って清水方面に下り、日蕨から上がる形となる。

事務局 地域懇談会を行うと、町民の方々の公共交通への関心の高さを感じる。
震災で住宅を高台に移転したため、まちなかまで移動するのに坂道が多く、特に高齢者には負担を掛けている状況であるため、円滑に移動できるようなシステムを構築していかなければならない。また、町で議会があるたびに貴重な意見を頂戴しており、しっかり住民の意見を尊重していかなければならないと考えている。

以上